

道路空間再配分による自転車通行空間の創出に関する研究 ～市民活動と連携した自転車まちづくりの実践報告～

国土交通省 正会員 小路 泰広
広島大学大学院 正会員 ○塚井 誠人

1. はじめに

環境、健康、渋滞解消などの面から自転車に対する期待が高まっている。自転車を活用するためには、安全・快適に通行できる空間が不可欠である。近年、自転車は車両であり、車道を通行するという方向が示され、今後は車道空間内に自転車レーンなどを整備していくことになる。限られた道路空間内で自転車通行空間を創出していくためには、道路空間の再配分が不可欠であるが、課題も多い。そこで、自転車通行空間の現状と課題の整理や、道路空間再配分の事例調査を行ったうえで、道路空間再配分の基本方針や方法論を検討し、広島市等を対象としたケーススタディを通じて今後のあり方を考えることを目的として研究を実施した。

2. 活動の全体概要

自転車通行空間を整備していくにあたり、行政など関係機関のみならず、市民の理解や参画が重要な役割を果たすことから、筆者らが参画している自転車まちづくりの市民団体「ひろしま輪輪プロジェクト」との密接な連携の下で、市民に開かれた研究会を定期的を開催するなど、情報の発信・共有とともに意識啓発を行いながら、実効的な施策につながるような活動を展開した。活動の全体概要は以下のとおりである。

(1) 自転車通行空間の先進事例の調査

「ガイドライン」¹⁾、「事例集(CD-ROM)」²⁾、土木学会の研究集会等を通じて先進事例等に関する情報を入手。

(2) 広島市における自転車通行空間の課題の整理

ワークショップ等を開催して現状や課題について意見交換を行い、広島市の特徴として以下の課題を抽出。

- ・自動車、路面電車、バス、タクシーが高密度で交錯
- ・橋梁部など道路が狭小な個所が多数存在
- ・自転車利用者が交通ルール・マナーを順守していない

広島市の課題との共通性を有し、先進的な取り組みを実践している事例として金沢市に着目することとした。金沢市では、市民団体が中心になって行政が連携し、車道への自転車走行空間整備を進めて効果を上げている。



金沢市における道路空間再配分による自転車走行空間整備

キーワード 道路空間再配分 自転車 市民活動 まちづくり バスレーン
連絡先 〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3 TEL 03-5253-8111

3. 道路空間再配分による自転車通行空間の創出を目指したシンポジウムの開催

シンポジウムは、市民による市民のための啓発の場とするため、市民団体「ひろしま輪輪プロジェクト」の主催とした。多角的に理解できるように、警察からの報告や、自転車関係団体等によるパネルディスカッション等を組み合わせ、誰でも参加できるように幅広く告知を行った。概要は以下のとおりである。

(1) 講演：「今なぜ自転車のことを考えるのか？自転車安全マップから始まった“金沢の奇跡とは？”」

学校との協働による自転車安全マップの作成が、行政との連携につながり、新たな施策を次々と生み出し、全国のガイドラインにも取り入れられたこと、バスレーンに「自転車走行指導帯」を設置し、現地指導を行うことで、歩行者・自転車の分離、自転車とバスの共存という、道路空間再配分が実現できた事例が紹介された。

(2) パネルディスカッション：「広島市の自転車まちづくりは、誰がどう進めるべきか？」

自転車に関係する様々な団体等にご参加いただき、広島における課題と取り組みについて意見交換を行った。

【パネリスト】学識経験者、まちづくり関係市民大学、高等学校、自転車プロロードレースチーム、自転車まちづくり市民団体（宇部市）、バス協会

金沢の事例等を参考に広島での今後のあり方等について、それぞれの立場からご意見ご提言を頂いたことで、自転車に関わる多様な主体の連携による取り組みの重要性を確認することができた。

4. おわりに

シンポジウムのほか、小規模なメンバーで行うワークショップなども開催し、広島における自転車通行空間の課題や解決に向けての意識啓発や意見交換を行い、一定の共通認識を得ることができた。さらに具体的な解決策の提示や、その実現に向けての協働体制の構築などが求められるが、それらは今後の課題としたい。

参考文献

- 1) 自転車利用環境創出ガイドライン：国土交通省・警察庁
- 2) 自転車利用環境事例集(CD-ROM)：土木学会土木計画学研究委員会自転車政策小委員会

【謝辞】本研究は、土木学会中国支部による平成 26 年度調査研究活動助成制度 (B)「課題名：道路空間再配分による自転車通行空間の創出に関する研究」の成果の一部である。また、本研究を実施するにあたり、「ひろしま輪輪プロジェクト」のメンバーからは多大な支援を受けた。ここに記して謝意を表す次第である。

